

「次期軽水炉の技術要件検討」WGの概要について

◆ WG設立趣旨（日本原子力学会 発電部会 ・ 設立期間：2018年6月～2020年5月）

- 3E+S と調和する次期軽水炉の「より安全・合理的な技術要件」を検討
 - ・ 次期軽水炉は、設計段階から、既設炉の経験を踏まえて、柔軟に対応が可能

◆ WGメンバー

- 主査：山口教授(東大) ○ 幹事（3名）：山本教授(名大)、関西電力、三菱重工
- 委員（19名）：大学関係(7名)、研究機関(3名)、電力会社(4名)、メーカ(5名)
- オブザーバ：エネ庁、ゼネコン(4社)、関連メーカ(3社)、幹事会社事務局

◆ スケジュール

2018年度			2019年度				2020年度		
▼ #1(7/23) 論点の抽出	▼ #2(10/31) 恒設/可搬型 SA設備の取 扱い	▼ #3(1/28) APCその他 テロ対策(特重 施設)の取扱い	▼ #4(4/24) 深層防護の 実装	▼ #5(8/1) 溶融炉心 冷却対策	▼ #6(11/8) 議論の纏め	▼ #7(2/19) 議論の纏め	▽ 3月 原子力学会 春の年会 (中止)	▽ 7月以降 シンポジウム	▽ 9月 原子力学会 秋の大会

◆ まとめ

- 恒設/可搬型 SA 設備の取扱い
 - ・ シビアアクシデント対策は、設計段階から系統構成・配置を工夫し、恒設設備の設置を主とし、可搬型設備などを適切に組合せる。
- APCその他テロ対策
 - ・ CV破損防止機能を持つ、SA設備と特重施設を統合する。
 - － 建屋の頑健性の向上・区画分離の徹底による
- 溶融炉心冷却対策
 - ・ 発生頻度が低く、不確かさが大きい現象（MCCI及び水蒸気爆発）によるCV破損を防止
 - － 影響の大きな現象の発生防止、影響低減の観点から、プラント特性・構造に応じた対策を選択